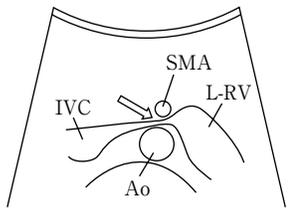
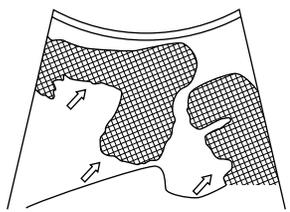
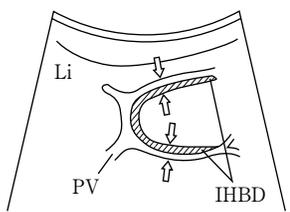
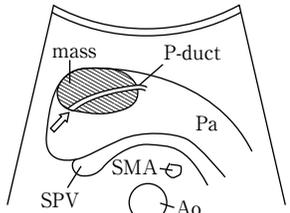
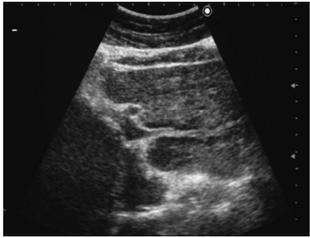
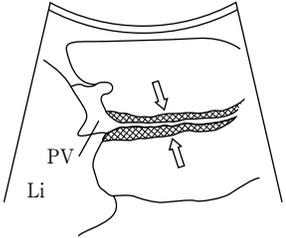
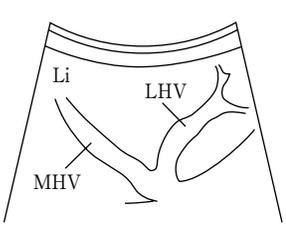
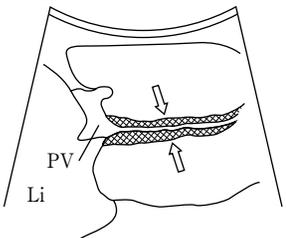
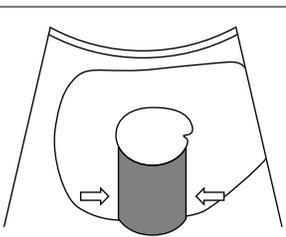
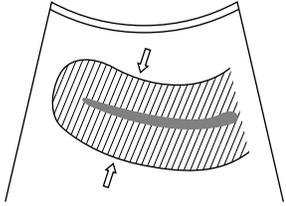
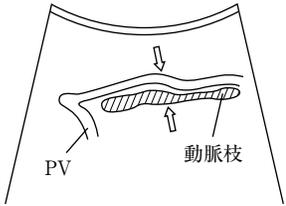
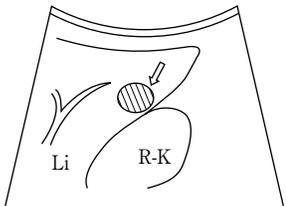
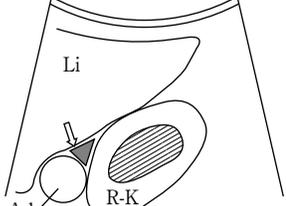
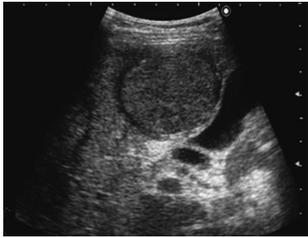
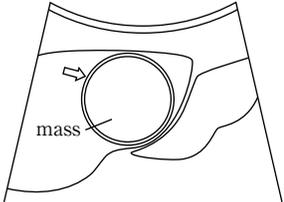
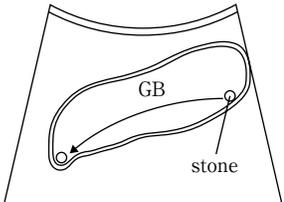
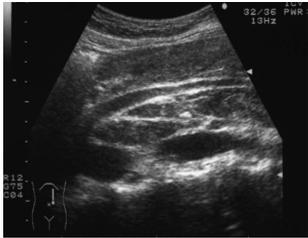
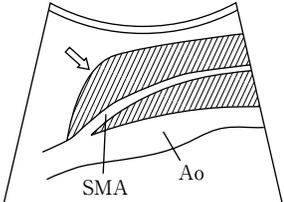


番号	名称	概念	対象疾患 対象部位	画像	シエーマ
47	nutcracker sign	心窩部横走査にて、左腎静脈が腹部大動脈と上腸間膜動脈との間に挟まれて怒張する現象。腎静脈圧が上昇し血尿の原因ともなる。 やせた患者や、探触子で腹部を強く圧迫することもnutcracker現象の誘因となる。 (nutcracker phenomenonと同義語)	左腎静脈		
48	omental cakes	腹壁と腸管との間に描出される大網が、腹腔内播種による癌のび慢性浸潤のために帯状、板状に肥厚すること。腹壁直下にみられ高エコーと低エコーが網目状に不整に混在し、表面凹凸不整な腫瘤像を形成。	癌転移 (卵巣癌、 神経芽腫、 大腸癌など)		
49	parallel channel sign	拡張した肝内胆管が並走する肝内門脈枝とともに平行線状に描出される。	肝内胆管 肝左葉外側区域の胆管と門脈 閉塞性黄疸		
50	penetrating duct sign (膵管穿通徴候)	膵管穿通徴候のこと。慢性膵炎に急性炎症が加わる場合に、限局して炎症が起きると膵癌とまぎらわしい腫瘤像を呈する。この場合、腫瘤内部を主膵管が断裂することなく貫通している所見がみられれば、腫瘤形成性の慢性膵炎と判断される。膵癌ではみられないため両者の鑑別に有用である。 (duct penetration signと同義語)	腫瘤形成性膵炎		

番号	名称	概念	対象疾患 対象部位	画像	シエーマ
51	periportal hypoechoic layer	(portal sandwich sign を参照)	肝臓 特発性門脈圧亢進症		
52	playboy bunny figure	肋骨弓下走査で拡張した中肝静脈および左肝静脈が playboy bunny の耳に類似することから呼ばれる。うっ血肝では肝静脈の怒張のためにこの所見が観察される。	うっ血肝		
53	portal sandwich sign	特発性門脈圧亢進症 (IPH) でみられ、内腔が狭小化し肥厚した肝内門脈枝 (高エコーに描出) の周囲を取り囲むように低エコー帯が観察され、肝硬変との鑑別に重要である。高エコーは器質化血栓を含む狭小化した門脈枝を反映している。外側の帯状の低エコーは門脈枝周囲の Glisson 鞘の浮腫状の拡大や線維化およびその内部の多数のリンパ管様脈管を反映している。食道静脈瘤や脾腫がみられ肝機能が良好な場合、このサインがみられれば IPH を疑う。原発性胆汁性肝硬変や肝硬変ではまれ。(periportal hypoechoic layer と同義語)	肝臓 特発性門脈圧亢進症		
54	posterior echo enhancement	腫瘍の後方の音響が周囲実質に比べて増強すること。肝細胞癌では腫瘍内部の方が周囲の肝実質よりも音の減衰が少ないために観察される。	肝嚢胞や腎嚢胞 肝細胞癌 肝血管腫 (全領域共通)		

番号	名称	概念	対象疾患 対象部位	画像	シエーマ
55	pseudokidney sign (シュードキドニーサイン)	消化管壁の全周性の肥厚像が腎臓の超音波像に類似することから称される。周囲の壁肥厚像は低エコーに、中心部の内容物や粘膜像は高エコーとして描出される。一方、レントゲンの注腸造影で見られる全周性の狭窄像をapple core signと呼ぶ。target pattern (sign) とも呼ばれる。	進行大腸癌 進行胃癌 消化管の悪性リンパ腫 腸炎 腸重積 憩室		
56	pseudo parallel channel sign	拡張した肝動脈枝と肝内門脈枝が並走して描出され、あたかも閉塞性黄疸のときにみられるparallel channel signのようにみえることから呼ばれる。 本症はカラードプラ検査により容易に鑑別可能である。アルコール性肝炎の約85~90%にみられるとの報告もある。 もう一つの意味として、下右肝静脈と右門脈後下区域枝が並走するための呼称でもある。	急性アルコール性肝炎 アルコール性肝硬変		
57	pseudo-tumor sign	脂肪肝で見られる限局性の低エコー領域が、腫瘤と紛らわしいために表現されている。 (focal spared regionを参照)	脂肪肝 胆嚢周囲 肝左葉内側区 (S4)		
58	retroperitoneal triangular fat wedge	肝臓と右腎との間隙に存在する後腹膜脂肪組織が三角形を呈する場合は、副腎由来であることを意味する。	副腎腫瘍		

番号	名称	概念	対象疾患 対象部位	画像	シエーマ
59	ring sign	腫瘍辺縁にみられる低エコー帯が指輪のリング状を呈する所見。	肝細胞癌		
60	rolling stone sign	音響陰影を伴わない小結石が、体位変換によって移動性が認められる様子。	胆嚢結石		
61	<u>sandwich sign</u> (サンドイッチサイン)	腫大したリンパ節が一塊となり血管を取り囲む所見。上腸間膜動脈の前後を腫大したリンパ節が取り囲みサンドイッチ様の像を呈する。悪性リンパ腫では、間質が少なく腫瘍細胞が密に配列しているため均一な低エコーとして描出され、逆に腫瘍内の血管像は明瞭となる。 “doughnut” appearanceとも呼ばれる。	悪性リンパ腫 腸間膜リンパ節		
62	satellite nodule	主癌腫瘍の周囲にみられる小結節が衛星のように描出されるためにいう。	肝細胞癌	